

## やさしい病害虫講座 30

### バラの病害虫-1

木村 裕

バラにはいろいろな病気や害虫が発生するので、立派な花を見ようとすれば病害虫の防除は必須です。また、定期的な枝の切り戻しなどの栽培管理にも手が抜けません。その代り、手入れがよければそれなりの見返りがあります。

#### ◆イバラヒゲナガアブラムシ

春、新芽が開いて枝が伸び始めると真っ先にやってくるのがこのアブラムシです。新芽、新葉、蕾などに数百匹の小さな緑色の虫がデモ行進をしているかのようにぎっしりと並びます。尾端から大量の粘液状の排泄物をまき散らすので、葉にはねばついた液が付着して光り、かつ二次的にすす病菌が繁殖するので葉は黒く汚れます。

たくさんの虫が一斉に汁を吸うのでバラにとってはかなりの負担となっているはずですが、枝枯れなどの目に見えるような被害はありません。

食べ物については好き嫌いが顕著で、栽培のバラ、ノイバラ以外には寄り付きません。



ときどきこの虫の集団の中に灰色のウジムシが紛れ込んでいることがあります。これはヒラタアブと言う正義の味方で、アブラムシを片っ端から食べてくれていますので、決して潰さないようにしてください。

#### ◆クロケシツブチョッキリ

春新芽が伸び始めた頃に発生する害虫ですが、体が小さいことと、人の気配に気づくと手足を縮

めてころっと落下する習性があるのでなかなか姿が見られません。

新芽や蕾の基部に穴を掘るように頭を突っ込んで食いかじりますので、そこから先の部分は萎れて枯れてしまいます。一匹の虫がつぎからつぎへと新しい茎に穴を開けるので被害は予想外に大きいです。



萎れ被害を見つけたら、その下にお皿のような受け皿を配置したのち被害部に手を触れると黒っぽい小さな虫が落下してきますので捕らえましょう。もし虫を捕まえたらよく観察してください。頭の先がゾウの鼻のように長く突き出しているのが特徴です。

#### ◆ニホンチュウレンジ

緑色のアオムシが5~6匹の集団をつくって新葉をかじっています。いつも体を曲げているのが特徴です。

姿はアオムシですがハチの仲間です。幼虫が葉っぱを餌としていることからハバチという名前がついています。成虫は刺す針はもっておらず、巣もありません。いつも単独で葉上をふらついています。



幼虫を見つけしだい捕まえましょう。毒はありませので怖がらずに。